

歩行車

シンフォニーラクーン

〔取扱説明書〕 保管用

ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みいただき、読まれた後は大切に保管してください。本製品を他の方にお譲りになるときは、必ず本書もあわせてお渡してください。

- このたびは、弊社の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
- ご使用にあたっては、ケアマネジャーまたは福祉用具専門相談員にご自身の体調や状態をお知らせの上ご相談ください。
- お一人でのご使用に不安のある方は出来るかぎり同伴者付き添いのもとご使用ください。
- 身体の状態によっては危険な場合もありますので、使用できるかを、ご自身でご判断ください。
- 判断に不安のある方は、ケアマネジャーまたは福祉用具専門相談員にご相談ください。

目次

警告事項・注意事項	1~2
各部の名称	3
車体のひろげ方	3
車体の折りたたみ方	4
ハンドル&ハンドブレーキの操作方法	4
駐車用ストッパの操作方法	4
ハンドルの高さ調節方法	5
座面の使用方法	5
カゴ受けの使用方法	5
ブレーキの調整方法	6
3WAY(スリーウェイ)キャスターの操作方法	6
傘・ステッキの固定方法	6
保証書	7

この取扱説明書に関しまして、ご不明な点やご質問などがありましたら、弊社サービス係、またはご購入販売店までお問い合わせください。

製品を安全にご使用いただくために、ご使用前にこの説明書をよくお読みいただき、十分ご理解の上ご使用ください。

事故や故障の防止のために、下記の事項を必ず守ってください。

警告事項 転倒など重大な事故につながる恐れがあります

- 自動車・バス・電車内・エスカレーターや階段では使用しないでください。
- 雨・雪・凍結など滑りやすい所では使用しないでください。
- 交通の頻繁な所、混雑している所、及び夜間の使用は十分に注意してください。
- 溝・坂道・道路などの段差のある所では十分に注意してください。
- 車輪を持ち上げた状態で使用しないでください。
- 踏切りを横断する場合、段差に十分注意してください。
特に警報機が鳴ったときに慌てて転倒したり、車輪が溝にはまるなど、大変危険な場合がありますので、同伴者付き添いのもと横断されることをお勧めします。
- 車体の組み立て及び調整は確実に行ってください。
- 車体が完全に組み立てられた状態であることを確認の上、ご使用ください。
- 車体を折りたたんだ状態では、絶対に使用しないでください。
- 車体を片手で押して使用しないでください。
- ハンドルの高さ調節部（左右）が固定されているかを確認してください。
- ハンドルに寄りかかったり、荷物を吊るすなど、過度の荷重をかけると、車体だけが前に動き、転倒する恐れがあります。
- 座るときや立ち上がるときに、片側の肘掛けだけを支えにしないでください。
車体が傾いて転倒する恐れがあります。
- 踏み台として使用しないでください。
- 坂道などの斜面では座らないでください。
- 屋外ではカゴを載せての使用はしないでください。
- 座るときは、必ず駐車用ストッパが左右の車輪にかかり、車体が動かないことを確認してください。
- 座面以外の所には座らないでください。
- 座面に浅く座らないでください。
- 座面から立ち上がるときは、車体が動かないことを確認してから、ゆっくりと行ってください。
- 乳幼児や子供に操作をさせないでください。また、座面上に立たせないでください。
- 乳幼児や子供の手の届く所に放置しないでください。
- 弊社のサービス員以外の分解・改造はしないでください。

注意事項 思わぬケガをする恐れがあります

※使用前

- 製品各部を点検（特にハンドブレーキや駐車用ストッパの利き具合、車輪及びブレーキタイヤ押さえの摩耗、車体を押したときのグラつきの確認）をして、調整は確実に行ってください。フレームや各部に亀裂・破損・変形などがある場合は使用しないでください。

※使用中

- 最大使用者体重は 75kg です。(ご使用される方の体重が 75kg 以下の方に限ります)
- バッグの載荷重は 10kg です。(カゴに入れる荷物も含めて 10kg を超える荷物は載せないでください)
- 座面に人を乗せたまま押さないでください。
- 乳幼児・子供・動物をバッグ内に乗せないでください。
- 車体の開閉操作時には乳幼児や子供を近づけないでください。
- 荷物はバッグ内の底部に収納してください。
- カゴに荷物を入れる際は、中央へ安定するように載せてください。カゴ内で荷物が移動するとバランスを崩し、カゴやカゴに入れた荷物が落下したり、車体が転倒する恐れがあります。
- バッグ内に荷物を入れたまま、車体の開閉操作をしないでください。
- ハンドルとハンドブレーキレバーの間に指を入れたまま、操作をしないでください。
- ハンドブレーキは自動車のブレーキとは構造が違いますので、過信しないでください。
- ブレーキプレートを踏まないでください。ブレーキプレートを踏まれますとプレートの変形や、ブレーキワイヤーの破損が発生し、ブレーキの利きが悪くなる恐れがあります。
- 駐車用ストッパがかかった状態で、車体を押さないでください。
- 車体を折りたたむときは、指を挟まないように注意してください。
- 車体から離れるときは、必ず駐車用ストッパをかけてください。
- 火気の近くでは使用や放置はしないでください。樹脂が変形し、性能を維持できなくなります。
- 砂・泥のある所、特に水たまりでは使用や放置はしないでください。
- 歩行車の用途以外には使用しないでください。

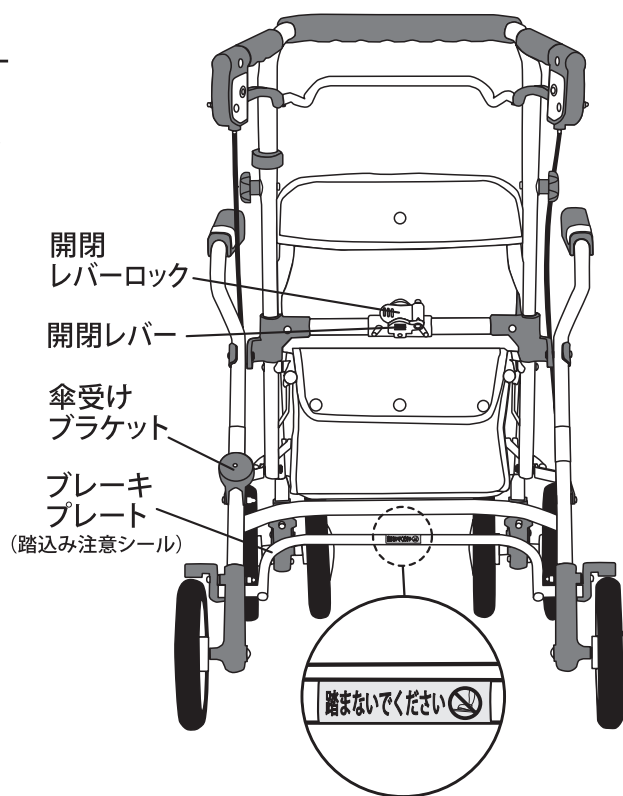
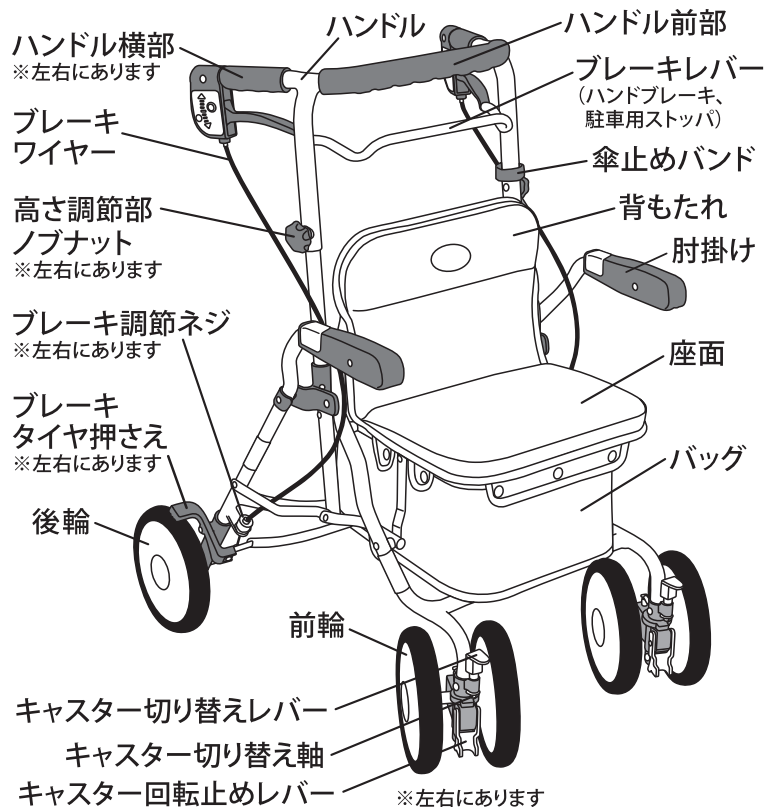
※使用後（保管・お手入れ）

- 火気の近く、高温多湿の場所での保管は避けてください。
- 雨ざらしにしないでください。サビや劣化の原因となります。
- 車体が濡れたときは、乾いた布で拭き取ってください。
- シンナー・ベンジンなどの有機溶剤で車体・バッグを拭かないでください。
- バッグの汚れは、柔らかい布で拭いてください。
- フレームや車輪が砂や泥などで汚れた場合は、そのまま放置せずに必ず汚れを拭き取ってください。
- 長期間使用しない場合は、汚れを落として高温多湿の場所は避け、日陰の場所で保管してください。
- 駐車用ストッパをかけた状態で保管された場合、後輪が凹んでしまう恐れがあります。駐車用ストッパをかけない状態で車体を折りたたんでも、自立できる水平な場所での保管をお勧めします。
- 寒暖の差が激しい所での保管は、バッグの変色や硬化、車体の劣化、動作不良などの原因となる場合があります。
- 車輪や車体がきしむときは、連結部等に潤滑油を数滴注油してください。注油後、車輪の回転及び、車体の開閉操作を 2 ～ 3 回繰り返してください。
- 非常口・消火器・消火栓の前に放置しないでください。
- 定期的に各部（車輪及びブレーキなど）の破損・緩み・摩耗などがいないかを保守・点検し、必要に応じて調整または交換をしてください。
- 定期的に各部のリベット・ネジなどが緩んでいないかを確認してください。
- 取扱説明書は大切に保管してください。

※廃棄について

- 各自治体の指示に従って処分・廃棄してください。

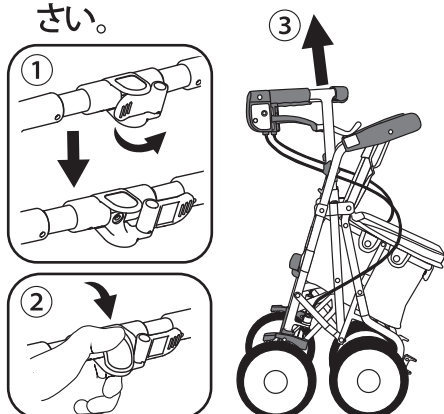
各部の名称



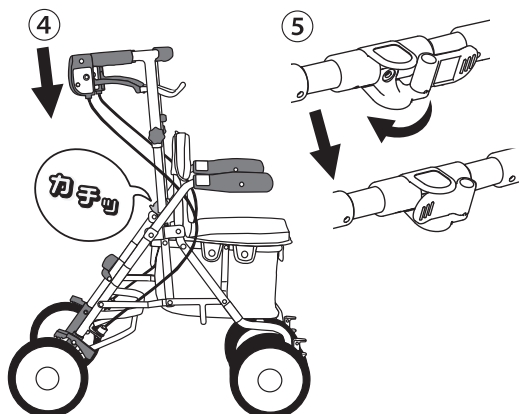
使用時サイズ	約H85 ~ 94 × W55 × D69cm		
収納時サイズ	約H77 × W55 × D48cm	座面サイズ	約W32 × D22cm
バッグサイズ	約H19 × W30 × D31cm	座面高	約43cm
バッグ載荷重	10kg	ハンドル高さ調節	4段階 (約3cmピッチ)
最大使用者体重	75kg	重量	約7kg

車体のひろげ方

1 開閉レバーロックを開き、開閉レバーのロックを解除してください。(図①参照) 開閉レバーをつまみながら、(図②参照) 図③の矢印の方向にハンドルが上がらなくなるまで引き上げてください。



2 開閉レバーを離し、ハンドルを少し下方方向に動かしてください。カチッと音がして固定用のロックがかかります。(図④参照) ハンドルがそれ以上に下に動かず、車体がひろがった状態でしっかりと固定されているかを確認してください。



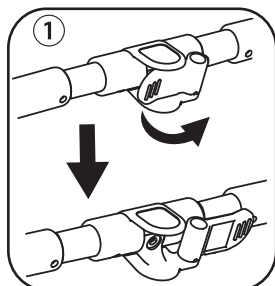
3 開閉レバーロックを閉じ、開閉レバーをロックしてください。(図⑤参照) 開閉レバーにしっかりとロックがかかっていることを(つまめない状態になっているか)確認してください。



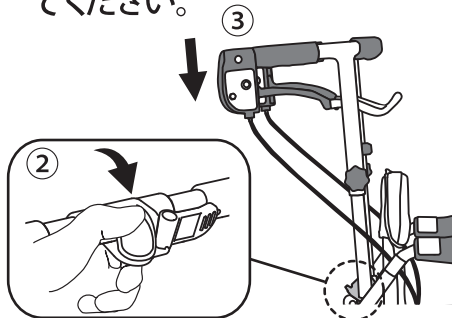
注 車体をひろげたり、折りたたむ際は必ず開閉レバーをつまみながらハンドルの上げ下げを行ってください。ロックシステムが車体を傷つける恐れがあります。

車体の折りたたみ方

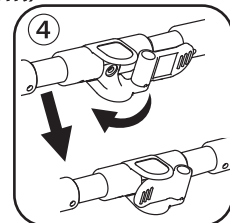
1 車体後面中央にある開閉レバーロックを開き、開閉レバーのロックを解除してください。(図①参照)



2 開閉レバーをつまみながら(図②参照) 図③の矢印の方向にハンドルを下げてください。



3 車体を折りたたんだ状態でしっかりと固定されているかを確認してください。開閉レバーロックを閉じ、開閉レバーをロックしてください。(図④参照)



注 安定した操作のためにキャスター位置を固定で行うことをお勧めします。

ハンドル&ハンドブレーキの使用法

ハンドルやハンドブレーキは、①ハンドル横部でも

②ハンドル前部を持っても使用できます。

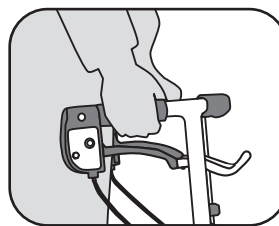
① ハンドル横部を持ってご使用の場合

- ブレーキ操作をするときは、ブレーキレバーの左右を握れば、両後輪にブレーキがかかります。

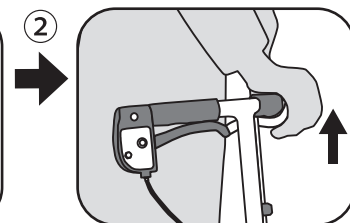
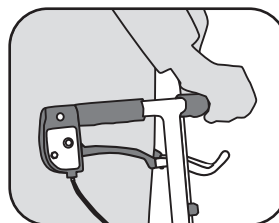
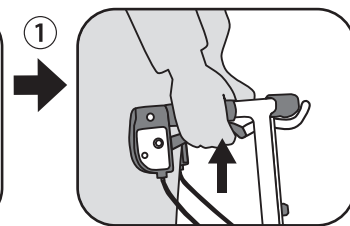
② ハンドル前部を持ってご使用の場合

- 手でハンドルの前部中央を握って使用してください。
- ブレーキ操作をするときはブレーキレバーの中央部を握ればブレーキがかかります。
- 前にもたれ過ぎると車体が前に移動し、転倒する恐れがあります。十分注意してください。

走行時



ハンドブレーキ使用時



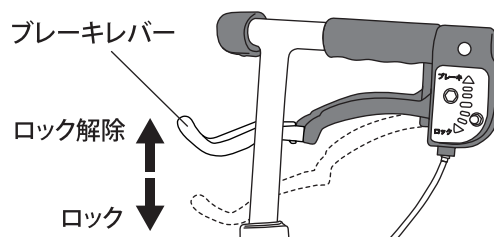
注 ● ハンドルに寄りかかったり荷物を吊るすなど、過度の荷重をかけると、車体だけが前に動き、転倒する恐れがあります。

- ハンドルとブレーキレバーの間に指を入れたままブレーキ操作をしないでください。
- ブレーキは構造上、自動車のブレーキのようには利かないので過信しないでください。
- ブレーキワイヤーが折れ曲がったりした場合、ブレーキが利きにくくなりますのでブレーキワイヤーの交換を依頼してください。

駐車用ストッパの操作方法

ブレーキレバーを下げると、後輪がロックされます。

ブレーキレバーを上げると、ロックが解除されます。

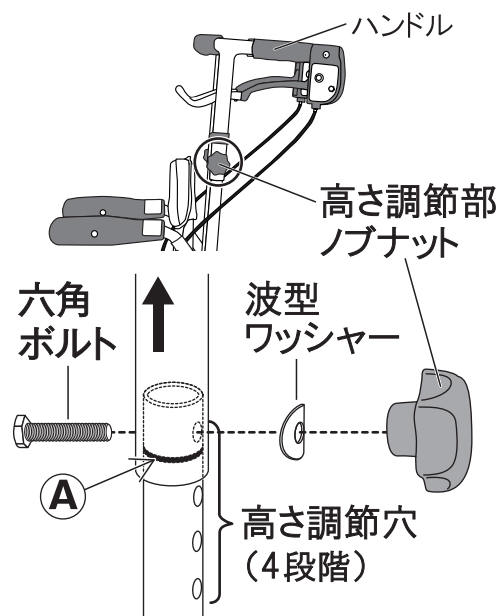


- 注**
- 駐車用ストッパのかかった状態(後輪がロックされた状態)で車体を押さないでください。
 - 座るときや車体から離れる場合は、必ず駐車用ストッパをかけてください。
 - 駐車用ストッパを下げる際に指を挟まないように注意してください。

ハンドルの高さ調節方法

1 左右の高さ調節部ノブナット、波型ワッシャー、六角ボルトを外します。

2 ハンドルを引き上げて高さ調節穴(全4段階)からお好みの高さに合わせたら、高さ調節穴に六角ボルトを差し込み、波型ワッシャー、高さ調節部ノブナットの順番でしっかりと固定してください。

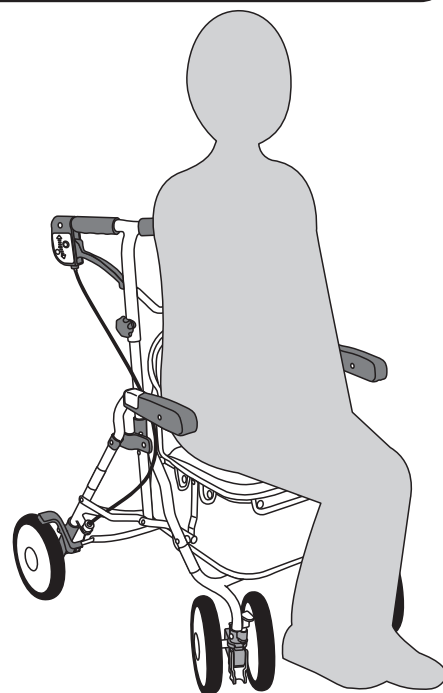


- 注**
- 左右のハンドルが同じ高さであることを確認し、固定してください。
 - 内側のパイプにある **A** のラインが見える位置までハンドルの高さ設定をしないでください。
 - 高さ調節穴に六角ボルトが正しくはめ込まれているかを確認してください。

座面の使用方法

駐車用ストッパをかけてから、座面全体へ均等に体重が加わるように、ゆっくりと座面の中央部に座ってください。

- 注**
- 最大使用者体重は 75kg です。
体重が 75kg を超えられる方はご使用になれません。
 - 座るときや立ち上がるときに、片側の肘掛けだけを支えにしないでください。
車体が傾いて転倒する恐れがあります。
 - 座るときは、駐車用ストッパをかけ、車体が動かない状態であることを確認してください。
 - 駐車用ストッパの上げ下げの際に、指を挟まないように注意してください。
 - 坂道などの斜面では座らないでください。
 - 浅く座ったり、背もたれに力をかけ過ぎないでください。



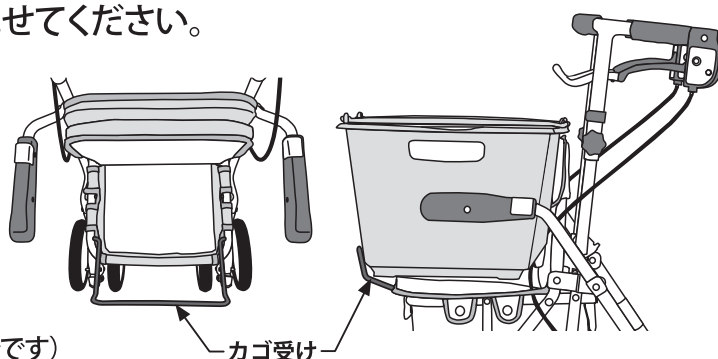
カゴ受けの使用方法

座面を上げて、カゴ受けを出し、座面を元の状態に戻してください。
座面とカゴ受けの上にカゴを横向きに載せてください。

- 注**
- 中央にしっかりとカゴを載せてください。
 - 急に曲がるとバランスが崩れ、カゴの落下や車体が転倒する恐れがあります。
 - カゴ受けを使用される際は、カゴの大きさやグラつき等がないか確認してください。

(カゴの底面の大きさは 約縦 40cm× 横 27cm までです)

- カゴに荷物を入れる際は中央へ載せてください。
- スーパーなどの店舗内以外ではカゴを載せて使用しないでください。



ブレーキの調整方法

※車体の初期設定はブレーキの調整がされている状態です。
 ※調整するときは左右両方のブレーキ調整を行ってください。

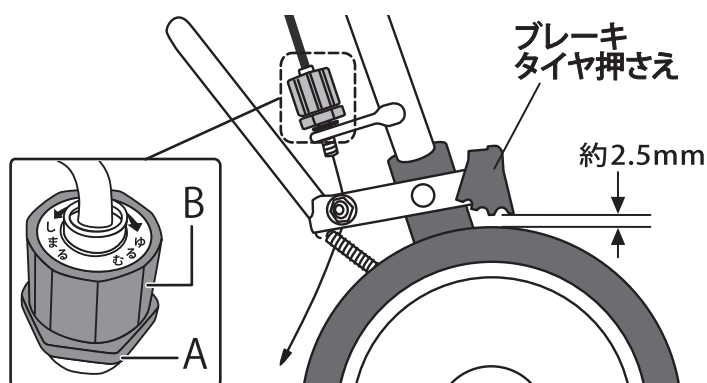
後輪とブレーキタイヤ押さえの間が約2.5mmになるように調整します。

〈ブレーキをきつくる〉

Aを緩め、Bを「しまる」方向に回して調整し、Aを締めてください。

〈一度きつしたブレーキを緩くする〉

Aを緩め、Bを「ゆるむ」方向に回して調整し、Aを締めてください。



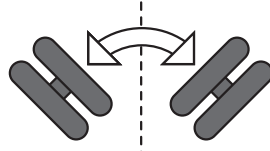
注 調整が終わったら、ブレーキレバーを握り、ブレーキが利きくかを確認してください。

3WAY(スリーウェイ) キャスターの操作方法

1 〈キャスターの首振りを左右各60度に設定する〉

キャスター切り替えレバーを下げた状態でキャスター回転止めレバーを下げます。

左右各60度

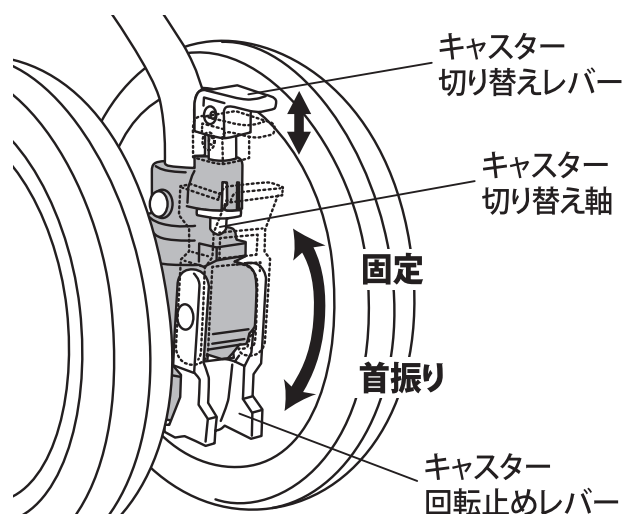


360度



2 〈キャスターの首振りを360度に設定する〉

キャスター切り替えレバーを上げた状態でキャスター回転止めレバーを下げます。



3 〈キャスターの首振りを固定する〉

キャスター切り替えレバーを下げた状態でキャスター回転止めレバーを上げます。

注 ●3WAY(スリーウェイ)キャスターの設定が左右同じであることを確認してください。

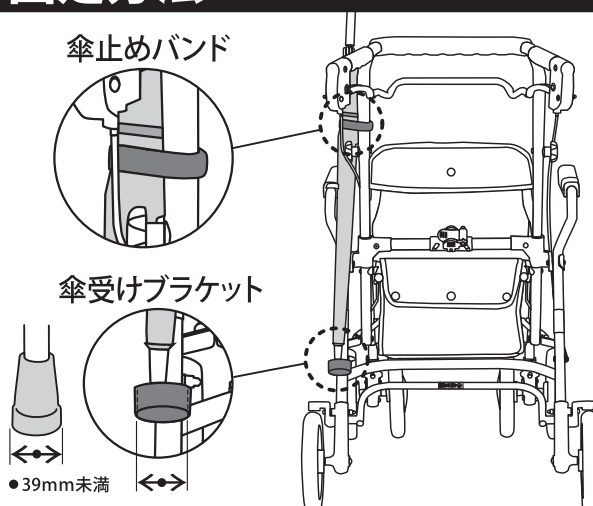
●キャスターの回転を360度から左右各60度にセットする場合は、キャスター切り替え軸を穴に正しく入れてください。

傘・ステッキの固定方法

傘止めバンドを外し、傘先を傘受けブラケットに入れ、傘止めバンドを傘に巻いて固定してください。

注 ●傘・ステッキはハンドルの外側に固定してください。

●先端の大きさが39mm以上の傘やステッキは、傘受けブラケットに入りません。



※製品改良のため、仕様・外観は予告なしに変更することがありますので
ご了承ください。

MADE IN VIETNAM 22.12



株式会社 島製作所

〒547-0001 大阪市平野区加美北 3-12-5
TEL 06-6793-0991 FAX 06-6793-0992



外袋

説明書